

50歳以上で泌尿器科を初めて受診する 患者さんに対する質問票について

当泌尿器科ではご高齢の方の治療の効果と安全性の向上を目標として様々な形で教育、臨床研究に取り組んでいます。

前立腺肥大に代表される泌尿器科疾患の多くは加齢症候群の一面を持つため、当科にはご高齢の方が多く受診されています。しかし加齢現象に伴う心身の機能の変化はガイドライン通りの治療を困難にするばかりではなく、予想外の合併症をひきおこすことが珍しくありません。今後更なる加速が見込まれる高齢化社会において、いかにしてご高齢の患者さんに安全かつ効果的な治療を提供するかは最重要の課題となっています。

患者さんに対し標準的で安全性の高い治療を提供するには、ひとえにその方の心身の変化をできるだけ正確に見極めることが大切であり、このための方法として高齢者機能評価（Geriatric Assessment）が提唱されています。多くの領域においてその有効性が報告されているのですが、残念ながら泌尿器科領域での応用はほとんど行われておりません。

そこで、泌尿器科では加齢が及ぼす診療行為への影響を定量的に解析することを目的に、泌尿器科を初めて受診される50歳以上の患者さんを対象として自己記入式の質問票による心身状態の評価を行い、治療の効果や合併症との相関を統計学的に解析します。

対象は2015年11月16日から2021年3月31日までの期間に泌尿器科外来を初めて受診する方のうち50歳以上の患者さんになります。対象の方々には外来を始めて受診する際に通し番

臨床研究に関するお知らせ

号が記入された質問票をお渡しします。ご家族の方と相談の上での記入でも結構ですので、診察までにご記入いただき、診察の際に担当医にお渡しください。その際、個人情報の保護の点から質問票用紙へのお名前やID番号の記入はご遠慮いただければ幸いです。

患者さんのご負担はこれで終了です。後日研究者が診療記録をチェックさせていただき、治療の効果や安全性についてのデータを収集し、横浜市立大学附属病院 泌尿器科にて、統計学的に解析を行います。

質問票ですのでいっさいの危険性はございません。また費用も発生いたしません。氏名・年齢・性別・住所・電話番号・ID番号などの個人情報はすべて削除され通し番号のみで管理されるため個人情報が漏れだす危険性はありません。また、研究対象に該当するか否かにより、実際の診療内容に影響が出ることは有りません。そして研究にご協力いただけない場合でも診療上の不利益を被ることは有りません。情報の収集を望まない方はいつでもお申し出ください。

(この研究に関して詳細な情報をご希望される方には計画書の開示を行っております)

研究協力医師や倫理委員会あるいはこれらの依頼を受けた第三者がカルテを閲覧する可能性はありますが、その際にも患者さんの個人情報は保全されます。研究成果は医学の発展のために学会発表や学術論文発表などをさせていただくことが有ります。その際も個人の特定が可能な情報は全て削除されます。なお、当研究には特定の費用はかからないため、補助金などの授受は有りません。本研究は横浜市立大学の倫理委員会の審査を経て正式に承認を得ております。

問い合わせ先 横浜市立大学附属病院 泌尿器科 近藤 慶一

電話番号 045-787-2800 (代表)